

## 大分市総合計画 検討委員会 第6回 防災安全部会 議事録

◆ 日 時 平成27年11月26日(木) 10:00～11:00

◆ 場 所 大分市役所 本庁舎4階 401会議室

◆ 出席者

### 【委員】

田中 孝典 部会長、安倍 雅宏 委員、安東 健治 委員、上田 秀樹 委員  
岡山 尚弘 委員、河野 淳 委員、高野 博幸 委員、鳥居 登貴子 委員  
花宮 廣務 委員、幸 紀人 委員（計10名）  
[欠席] 和泉 志津恵 副部会長

### 【事務局】

市長室 主査 大城 存、企画課 主査 中川 淳  
企画課 参事補 安達 浩、参事補 平川 義文（計4名）

### 【プロジェクトチーム(PT)】

市民協働推進課 主査 藍沢 伸介、土木管理課 専門員 松尾 裕治  
消防局予防課 消防司令補 松岡 辰倫（計3名）

### 【傍聴者】

なし

◆ 次 第

1. 開会
2. 議事
  - (1)提言の検討
    - ①中間提言(案)
    - ②最終提言(案)
  - (2)その他
    - ①基本的な政策
    - ②素案の修正状況
    - ③今後の日程
3. 閉会

## <第6回 防災安全部会>

事務局

皆様、おはようございます。ただいまから大分市総合計画検討委員会第6回防災安全部会を開催いたします。

本日は副部長から欠席されるとの連絡を受けております。

はじめに、配付資料の確認をしたいと思います。

まずは本日の次第でございます。それから座席表と、中間提言の案、最終提言の案、これにつきましては、事前にお送りしたものでございます。皆様、今日はお持ちでしょうか。それから、本日配ったA4横の分で、新旧対照表があらうかと思っております。

本日の会議の内容ですけれども、前回に引き続きまして、「中間提言（案）」についてご議論いただきたいと思っております。その案につきましては、先日、皆様にお送りしたところでございます。本日の会議で内容を確定することができればと考えております。

次に、「最終提言（案）」についてご議論いただきたいと思っております。これも同様に事前にお送りしております。こちらはまだ内容を確定する段階ではございませんが、部会としてのおおむねの案として、本日了承をいただければと考えております。

その次に、その他として、主に意見、1点目は「基本的な政策」についてご意見をいただきたいと思っております。これは素案の一部になっております。それから2点目として、「素案の修正状況」について報告させていただきたいと思っております。

それでは、早速、2、議事に入らせていただきます。議事の進行につきましては、検討委員会設置要綱第7条第4項により、部会長が行うこととなっておりますので、部会長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

部会長

改めまして、皆さん、おはようございます。大変お忙しい中、会議に出席していただきましてありがとうございます。

それでは、次第に従いまして議事の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

では、1、提言の検討の①中間提言（案）について、事務局に説明をお願いいたします。

事務局

事前にお配りしております「中間提言（案）」をご覧ください。

これにつきましては、12月2日に検討委員会の正副委員長と、それから各部会の正副部会長が一堂に会して部会代表者会議を開催し、中間提言を委員会として決定した後、市長に提言を行うという予定になっております。そのために今回の部会で内容を確定させていただきたいと思っております。

内容につきましては、ご意見があればいただきまして、修正が必要な場合は、可能な限りこの場で修正ができればと考えております。12月2日に中間提言として行う提言書として確定ができればと思っております。

それでは、「中間提言（案）」についてご説明をさせていただきたいと思っております。

前回は議論をいただいておりますけれども、そこからの修正事項について簡単に説明をしたいと思います。

まず、1ページ目の(1)全体についてですが、その1点目の2行目、「市民の防災意識の高揚が図られている」というところで、少し表現を修正しております。

それから、2点目の1行目、「少子高齢化の進展」に加えまして、「人口減少社会の到来に伴い」という分を追加しております。

それから、3点目の出だしのところですね、「対策を講じるに当たっては、自分の身は自分で守ることを基本としながら」と、この部分については、最終提言の整合を図る関係で追加をしております。

それから、2ページ目をご覧ください。

2ページ目の一番上「災害対策基本法において」という出だしのところですが、その3行目ですね。委員から指摘があった部分だと思います。「地域においてその教訓をしっかりと伝えていく」ということと、「ハザードマップの作成に当たっての過去の災害の状況を十分に把握し」ということで、「地域においてその教訓をしっかりと伝えていく」という分を追加しております。

それから、その次の「学校行事やPTA行事等において」というところは、少し表現を修正しております。

それから、(3)安全・安心な暮らしの確保についての2項目めですね。これについては、「多くの集客がある公共のイベント」ということで、「公共の」というのを追加しております。

また、3点目につきましては、「防犯対策については」、前回の案では、「警察や地域の関係団体等による」としていましたが、委員からの指摘で、警察というのは2項目めにもかかわるといふ部分があるので削除してはどうかという提案がありましたので、削除しております。修正事項については以上でございます。

次に、部会長からあらかじめ指摘、修正の提案がっておりますので、その分をご説明したいと思います。

皆さんの素案に書き加えていただきたいと思います。

1ページに戻っていただきまして、主な意見の(1)全体についての1項目めです。「東日本大震災の発生から」という出だしのところですね。この3行目、「近い将来に発生が見込まれる南海トラフ地震においては」という表現がありますけども、ここを「近い将来に発生が予想される南海トラフ地震」と修正してはどうかとご指摘です。

それから、2点目は「少子高齢化の進展」という出だしのところなんですけども、進展というのが、いい意味であれば進展でもいいのではないかとということで、ここは「少子高齢化の進行」と修正をしたいと思います。

それから、3点目は「対策を講じるに当たっては」という3点目なんですけども、「自分の身は自分で守ることを基本としながら」という表現については、後ろに持ってきたらどうかということで、下から2行目ですね、「地域における先進事例の普及や多様な主体との連携により」の後に、「自分の身は自分で守ることを基本として、効果的な施策展開を図る」と修正してはどうかという提案をいただいております。

続きまして2ページ目でございます。

(3)安心・安全な暮らしの確保についての2項目めの「交通安全の啓発については」という出だしのところですね。この2項目めの1行目の一番最後のところですね。「関係

機関としっかりと連携を図りながら」とありますが、「関係機関と十分な連携を図りながら」、「しっかりと」を「十分な」と修正してはどうかという提案がっております。

また、その続きです。「連携を図りながら、多くの集客がある公共のイベント等」とあるんですけども、ここは「多くの人々が参加する公共のイベント等」と修正してはどうかという提案がっております。

部会長からの提案は以上ですけども、一度、今の案で読み上げた方がよろしければ一度読み上げようと思っておりますがいかがでしょうか。

(もう読まなくてもいいのでは)

事務局 よろしいですか。では、今の部会長からの提案も含めた形でご意見をとっております。以上でございます。

部会長 ありがとうございます。  
ただいまの説明を伺って、皆様方、何か質問、ご意見等はございますでしょうか。

委員 表現のところで、今の部分に関しましては特にありませんが、南海トラフ地震の部分ですが、これに「巨大」というのがつくかどうかということが気になっておりまして、調べたんですが、基本構想には「巨大」という表現を使用されております。大分市の防災マニュアルも「巨大」という表現がございました。あと、過去、中央防災会議であったり、地震調査研究推進本部の提唱されたものには「巨大」というものがついておりましたので、「巨大」という表現をつけてもいいのではないかなということで提案をしたいと思っております。

事務局 分かりました。これについては、実は「巨大」を削除する方向で整合を図ったのですが、そこはもう一度検討させてください。この提言書、また計画書の中にも何力所も出てまいりますので、そこは整合を取りたいと思っております。

委員 今、委員から指摘がありました。私としてはやはり「巨大」を入れた方がいいんじゃないかと思っております。要するに3連動で、この地震が想定されていますし、それ以上に日向灘まで広げてというような形で、単に南海地震だとか、東南海地震、単発の地震じゃなくして、こういった広域のトラフ全体の地震という意味では、「巨大」というのを入れる方が正解じゃないかなと私は思っております。

事務局 今の意見につきましては、この提言書に限らず、計画書の方も当然検討が必要だと思っておりますので、今の意見については検討して、また整合を図りたいと思っております。

部会長 市民の防災意識の高揚を図るという意味では、「巨大」という形容詞があった方が意識が高揚するかと思っておりますので、事務局でも検討をお願いいたします。  
他に委員の皆様、ご意見はございませんでしょうか。(なしの声)

ないようですので、これを防災安全部会からの中間提言とし、12月2日に私と副部長で部会代表者会議に出席の上、市長に中間提言を行いたいと思います。ありがとうございました。

次に、②の最終提言（案）について、事務局にご説明願います。

事務局

続きまして「最終提言（案）について」をご覧いただきたいと思います。これも以前お配りしているものでございますので、そちらをご覧ください。

これにつきましては、前回ご意見をいただきました「提言の骨子」をもとに最終提言として、全体的に文章形式につなげたものでございます。これにつきましては、来年2月下旬に全体会議で正式に決定しまして、市長に最終提言として提出していただくというものでございます。

本日皆様からいただいたご意見、また、年明けに1月から2月にかけて総合計画原案について行うパブリックコメントを通して、市民の皆様からも意見をいただきます。そういった意見を踏まえた修正であるとか、あとは部会間の調整による修正ということもあろうかと思っておりますので、その後にこの最終提言の内容は確定することになります。ただ、これまでの議論を踏まえた部会としての案といたしましては、本日の会議でおおむね了承いただければと思っております。

最終提言の案をお送りした際の送付文にも記載をさせていただいておりますけども、これを作成するに当たっての考え方等についてご説明をいたします。

前回ご意見いただいた提言骨子に基づいて作成いたしておりますが、一部順番が前後していたりとか、位置が変わっていたりとか、あと、何項目かまとめて表記したのもございます。あと、言い回しにつきましては、現行計画の最終提言がございますので、その言い回しに合わせております。あまり平易な表現は使用せず、ある程度提言らしい表現にいたしております。

大きい修正といたしましては、「最終提言（案）」の2ページ目をご覧いただきたいんですけども、一番上ですね、(1)のタイトルにつきましては、前回、骨子のときは、「防災安全に関する教育・啓発の着実な推進」としておりましたが、「教育・啓発を軸とした防災安全に関する対策の着実な推進」と修正をさせていただいておりますので、この分についても議論いただければなと思います。

それから、同じく2ページ目の(2)のタイトルにつきましては、「地域力」と書いています。前は「地域の絆」としていたと思うんですが、ここは「地域力」という文言を使用しております。委員のご意見を受けまして、「地域力」という言葉を使っております。

タイトルの中の2行目の内容にも同じく「地域力」という言葉が出てきておりますが、これにつきましては、実際にほかの自治体で独自で定義をして使っているような事例があったりとか、国の事業として「地域力」が出てきていたり、また、市長会の提言の中に出てきていたりということで、一般的には使われておりますが、ただ意味合いとしてはちょっとまたそれぞれの団体が定義をしているというようなことはあるようですが、部会として出たご意見、ご発言で、地域における支え合いとか助け合いとか、地域の機能であるとか、そういったものを端的にあらわす言葉として「地域力」というものを使

ってもいいんじゃないかならうかと思ひまして、ここについては「地域力」と修正をいたしてあります。

あと、部会長から事前に一部修正の提案がっておりますので、そちらについてまたご説明したいと思ひます。また皆さん、案に書いていただきたいと思ひます。

提言書の1ページ目ですね。「1. この分野における課題について」の3段落目ですね。「一方、少子高齢化の」、ここについては先ほどもありましたけども、「少子高齢化の進行」と修正をしたいと思ひます。

それから、その次の段落、一番最後の段落ですね、「こうした防災安全分野における」という段落の下から2行目です。最後の文章です。「その上で、課題解決に向けた的確な対策が講じられなければならない」としてありますけども、「課題解決に向けた的確な対策を講じなければならない」と修正をお願いします。

それから、大きい2番ですね、「解決のための施策展開について」、これは先ほどの中間提言の分と同じでございます。1行目の「自分の身は自分で守ることを基本としながら」というところを最終段落の「多様な主体との連携により、」の後に「自分の身は自分で守ることを基本として、効果的な施策展開を図るという視点が不可欠である」としたいと思ひます。

それから、2ページ目にいきまして、2ページ目の「(1) 教育・啓発を軸とした防災安全に関する対策の着実な推進」とあります。その3段落目ですね。「南海トラフ地震が発生した場合には」というところですけども、この3行目ですね。「市単独では対応できないものも多いと思われるが、」とありますが、ここを「市単独では対応できないものもあることから、」に修正願ひます。その続きです。「各主体に対し問題提起を行うべきである」というところを「問題提起を行っていく必要がある」としてください。

それから、(1) の一番最後の段落です。「特に取組の必要性が高い」という出だしのところの段落ですけども、「取組の必要性が高い一方で参加が難しい」を「参加が少ない」に修正をしたいと思ひます。

それから、その下です。「(2) 「地域力」と連携による身近な安心・安全の実現」の1段落目の2行目ですけども、「地域力」を今後とも充実・強化していくことが重要である」というところですが、ここを「地域力」の充実・強化を図ることが重要である。「今後とも」というのがこの位置になるとおかしくなりますので、「今後とも」につきましては、「さまざまな取組が行われており、今後ともその原動力となっている「地域力」の充実・強化を図ることが重要である」と、「今後とも」を1行目の最後に持ってくる形にしたいと思ひます。

続きまして、3ページに移っていただきまして、3ページ目の上から2行目のところ。「松岡地区において行われている」、を「松岡地区において実施されている」に修正願ひます。

それから、次の段落です。「消防団については」という段落ですけども、その段落の4行目の右の方ですね。「団員の勤め先の理解」というのがあるんですけども、「団員の勤務先の理解」と修正をしたいと思ひます。

それから、次の段落です。「このほか」で始まる段落ですけども、その1行目の右の

方です。「AEDがいざというときに」というところを「AEDが緊急時に機能するよう」にしたいと思います。

それから、最後の段落です。「交通安全、防犯に関しては」という段落の下から3行目、「多くの集客がある大学祭、公共のイベント等」とありますが、ここは先ほどの中間提言と同じように、「多くの人々が参加する大学祭、公共イベント等」としたいと思います。

それから、一番最後の2行ですが、1行目の右の方ですね。「とりわけ未来を担う」というところの「とりわけ」は「特に」と修正をしたいと思います。

以上のような指摘を部会長から事前にいただいておりましたので、ご説明いたしました。

これにつきましては、今回初めてお示ししますので、どうでしょうか。今の修正も踏まえた形で一度読み上げた方がよろしいですか。(いえ)

委員 私から1点。2ページ目の(1)教育・啓発を軸とした防災安全に関するところですね。上から3行目から4行目、「引き続き、全市的に対策を講じていく必要がある」とあるんですけども、この「対策」の主語が抜けているので、「教育等」とか「啓発等」とかいうのを入れてはどうでしょうか。

事務局 「教育・啓発等の対策を」というような感じでいいんですかね。(はい)  
タイトルというか、そこがメインになるので、それを入れるということですね。

部会長 「全市的に対策を講じていく必要がある」で、何の対策を講じるのかというのが、ここだけ読むと分からないので。ご検討いただくということでもよろしいですか。(はい)

部会長 あと、先ほどの話とちょっと重なるんですけど、「南海トラフ」という文言が出てまして、ここも「巨大な」という1語を入れるという方向でご検討をお願いします。

事務局 そうですね、3カ所出てくる箇所があるかと思いますので、そこはあわせて検討いたします。

部会長 ほかに皆様から何かご意見ございますでしょうか。

委員 3ページ目のAEDの話のところですが、「緊急時にAEDが機能する」という表現がどうかと思ひまして、「緊急時に使用できるよう」の方が入りやすいのかなと思ひます。

部会長 「緊急時に使用できるよう」という文言で事務局でご検討いただけますか。(はい)  
ありがとうございます。そのほかご意見はございませんでしょうか。

委員 今回の修正ではないんですけども、最終提言するのが年明けということで、1ページ

目の途中なんですが、「また、昨年8月には」というところと「本年9月には」というところは、いわゆる今年、12月までということになりますね。昨年度、本年度ということに文言の方がいいかと思います。

事務局

そうですね。それは全然考えていなかったです。ありがとうございます。一昨年と昨年になりますね。

部会長

そのほか何かお気づきの点がありますでしょうか。よろしいでしょうか。

(なしの声)

部会長

では、本部会としましては、「最終提言（案）」の内容は基本的にこれで確定したいと思います。

今後は、来年1月から2月にかけて実施されますパブリックコメントにおいて出された意見や他の部会との調整により修正等の必要が生じる場合もありますが、その修正作業につきましては、正副部会長と事務局に一任していただきたいと考えておりますが、よろしゅうございますでしょうか。

(はいの声)

部会長

ありがとうございました。では、次に（2）その他、基本的な政策について、事務局にご説明をお願いいたします。

事務局

それでは、冊子の中におそらくあると思います。計画の素案ですね、当初にお配りした分です。素案の8ページをご覧ください。

8ページの一番の上に「第7、基本的な政策」と記載をされているかと思います。この基本的な政策は、目指すまちの姿の実現に向けて各種施策を展開する上での柱となる6つの基本的な政策を掲げているものでございます。1から6までありますけども、市民福祉の向上、教育・文化の振興、それから、当部会で担当しております防災安全の確保、それから産業の振興、都市基盤の形成、環境の保全というような6本柱になっております。

防災安全部会が関連する分は3番目ですが、ここにつきましては、本計画の基本構想部分でありまして、その第3部の、今、皆さんからご議論いただいた防災安全分野の計画の内容があったと思いますが、そこで定めている内容を総括的に記載しているという部分でございます。

当初から議論するという方法もあったんですけども、まずは内容を議論して、その後で改めてここを議論していただいた方がいいだろうということで、このタイミングで少しご意見をいただければなと思っております。これまでの部会の議論を踏まえて、少しキーワードとかを入れられれば入れていきたいと思っております。

読み上げますと、現行の内容は、



「地震や津波、台風などの自然災害はもとより、テロや武力攻撃事態、さらには日常生活を脅かす犯罪などのあらゆる危機事象を想定し、市民（自助）、地域（共助）、行政（公助）がそれぞれの役割分担のもと連携・協働して、被害を未然に防止し、または最小限に抑えることのできる体制を構築し、安心・安全を身近に実感できるまちづくりを進めます」というような内容になっております。

今までの議論、また提言書等の内容を見たときに、例えば「市民、地域、行政」とありますが、「市民、地域、行政及び関係機関」というようなことで、関係機関との連携という話がありましたので、「関係機関」を入れてはどうか、あとは、下から2行目の「体制を構築し」とありますが、先ほど議論いただきました提言書の表現から持ってきて、「着実に対策を推進し」といった言葉を入れてはどうか、あと、うちの内部の協議の中では、2行目のところで、いろいろ述べた後に、「あらゆる危機事象」とあるんですけども、その中で、分野としては交通安全というのもありますので、交通事故とかそういうものも表記してはどうかというような意見も出ております。

そういった意味で、対案というか、今のところこれの対案はないのですが、今日ご意見をいただければ、その意見を踏まえて、今後、事務局の方で修正をしていきたいと思っております。以上です。

部会長

ありがとうございました。ただいま事務局の説明を聞いて、皆様方、ご意見、ご質問等があればお願いいたします。

関係機関というのは、消防団とかあらゆるそういったものを全部含めてということですね。

事務局

そうですね。交通安全協会であるとか、そういった団体との連携という部分が一つのキーワードとなっておりますので、そこはぜひ入れてはどうかと思っております。

部会長

皆様、何かお気づきの点がございましたら、お願いいたします。

委員

危機事象をもう少し具体的にというようなお話だったんですけども、もし具体的に入れるのであれば、感染症なんかも一つ加えていただきたいなと思います。感染症がほかのところにもどこにも入っていないので。

事務局

感染症の対策については、計画書でいきますと、福祉のところになるのですが、素案の39ページをご覧ください。39ページの動向と課題の一番最後の段落ですね。「さらに」というようなことで、健康危機、こういった感染症の部分は、対策についてはここで記載しております。ただ、今、うちの防災安全の素案の中には、感染症というあれはないですね。

委員

そうすると、感染症は防災からは外れますね。（はい）

委員

安心・安全ということを考えると、やはりどこかに入れた方がいいと思うのですが。

事務局

そうですね。素案の3ページをご覧いただきたいんですが、3ページは、本市を取り巻く社会情勢と課題ということで、ここに大きな課題を記載しているところですけども、その3ページの一番下ですね。安心・安全への関心の高まりということで、この中に、いわゆる南海トラフ巨大地震の話であるとか感染症の分ですね、次のページ、4ページ目の3行目などに記載しております。少し大きな課題としてはここに記載しております。

また、各分野の動向と課題への記載であるとか、先ほどの基本的な政策の部分についての記載については、ほかの部会との調整もありますので、こちらで検討させていただきたいと思います。

部会長

ほかに皆様、ご質問、意見ございましたら、ご発言をお願いいたします。

(なしの声)

部会長

では、ご質問がないようでしたら、次の②素案の修正状況について事務局から説明をお願いいたします。

事務局

素案の修正状況の報告を1点させていただきたいと思います。それでは、本日お配りしました「新旧対照表」をご覧いただきたいと思います。A4横の資料で「素案新旧対照表」と、「修正状況、平成27年11月26日」と記載しているものでございます。これを開いていただきますと、左側が当初にお配りした素案ですね。先ほど見ていただいたものを左側に記載してありまして、右側が、部会が始まった後に、意見を踏まえた修正であるとか、また市の内部で再検討して結果修正した部分も含めて、修正や追加した箇所が分かるように表記した対照表でございます。

現在、素案を修正いたしまして、来年1月からのパブリックコメントのために市民に公表します原案を作成中でありまして、今回のこの右側の修正案についても、あくまで現時点のものでございます。修正の内容と修正の進捗状況を報告するために配付させていただいております。

そもそも総合計画は、個別の施策とか取組を定めるものではなくて、市としての大きな政策の方向性を定めるものでもありますので、いただいた意見がストレートにその素案に反映されているわけではないという部分もありますが、できる限りご意見の趣旨、またその内容を踏まえて作成したいと思っておりますし、また、計画を実施というか、運用していくに当たっても、ご意見、ご提言を踏まえてやっていかなければいけないと考えております。

先ほども申し上げましたけども、あくまで現時点での修正状況ということの報告でありまして、正式には原案がまた確定いたします。年内には原案を確定して、市民の方に公表し、ご意見をいただくということになりますので、それができ上がりましたら、また皆様に改めてお送りしたいと考えております。以上です。

部会長            ありがとうございます。事務局の説明について何かご質問等ございますでしょうか。これも1ページのところで、左のところで、「南海トラフを震源とする」とありますが、「巨大な」という文言の検討をお願いします。

事務局            そうですね、この辺もございますし、先ほど見ていただいた素案の基本構想の部分の中にも大きな課題としても出てまいりますので、そこはあわせて表記を統一するように検討したいと思います。

                  また、今回、個別の修正箇所については、これまでもご説明した部分もありましたので、ご説明をするようにはしてないんですけども、またこれをご覧になってお気づきの点があれば、また後日でも言っていただければ、参考にさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

部会長            では、また委員の皆様方で何かお気づきの点がございましたら、事務局に連絡をお願いします。

事務局            基本的には以前1点議論していただきましたこの意見、様式があったと思います。これについて意見があって、市の考え方、あと、ここで素案を変えた場合はこうですよというようなことで、その中でご説明をさせていただいていますけども、それを素案に落とし込んでまとめたものが今のこの状況ということになっております。

部会長            ありがとうございます。特にご質問もないようですので、次の③の今後の日程について事務局から説明をお願いいたします。

事務局            それでは、今後の日程についてご説明をさせていただきます。

                  今回の会議をもちまして、防災安全分野に関する詳細な議論は終了ということになります。

                  今後につきましては、先ほども少しご説明しましたけども、12月2日に中間提言に関する部会代表者会議が行われますので、部会長、副部会長にご出席をいただきたいと思っております。その会議の後に市長への中間報告が行われるという予定になっております。

                  また、12月下旬には、その中間提言を受けて、市の内部で会議を行いまして、大分市総合計画の原案を決定したいと考えております。その上で、その原案を委員の皆様方にもお送りしたいと思っております。

                  それから、年が明けまして1月から2月にかけて、具体的には1月15日から2月15日までを予定しておりますが、大分市総合計画原案のパブリックコメントを実施しまして、広く市民の皆様からご意見をいただきたいと考えております。

                  また、2月の下旬には、そのパブリックコメントの結果を検討委員会へご提示いたしまして、最終提言を取りまとめることになるかと思っております。

                  このパブリックコメントの中で、防災分野に関して何か大きな議論が出て、それは部会で今一度議論した方がいいというようなことがあれば、また集まっていたとか、もし集まっていたくいとまがなければ持ち回り協議とか、そういったこともあり得な

いことはないのですが、今のところ一堂にこの部会の委員の皆様が集まっていただく機会としては最後となり、次に皆様が集まっていただくのは2月下旬の全体会議になるかと思えます。初回と同じように全体の委員長、副委員長から、各部会の全委員の皆様が集まっていただく会議の機会になろうかと考えております。以上でございます。

部会長

ありがとうございます。今後の日程について何かご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、以上をもちまして議題を終了させていただきます。

以上で議題は終了となりますが、先ほど事務局からご説明がありましたとおり、今回の会議をもちまして、基本的にこの防災安全部会で集まることは最後ということになりますので、委員の皆様から今回の部会に参加された感想や市に対する要望などがありましたら、ご発言をお願いいたします。

委員

今回の部会の感想ですが、行政の方がこういった計画とかを情報発信されるときに、いかに文章がよく練り込まれて、詳細な議論を上で外に出されているんだなというのを素直に感じました。行政の皆さんの会議の進め方とか、きめ細やかな対応は、私なんかもとても感謝していますというか、すばらしかったと思います。

1点、今後でお願いするとしたら、文章の中身をここで議論するときは、今回いただきましたけど、できれば事前に内容をいただいておけば、もっともったいいお話ができたかなという気がします。ありがとうございました。勉強になりました。

委員

この部会に参加させていただいて、私の意見を真摯に受けとめてくださって、きれいに反映していただけたことを非常に感謝しています。どうしてもこういった審議会は、何かガス抜きみたいな形で終わるときが多いんですけども、本当に大分市さんは真摯に受けとめていただいたなと思って、非常によかったなという思いをしています。どうもありがとうございました。

事務局

実は朝日新聞に連載を持たれておりまして、昨日掲載された記事がございまして、それについて委員からご説明をお願いします。

委員

たまたま今日会議があるということだったので、こちらの方にメールしたんですけども、「災害は忘れる暇なくやってくる」というコラムを2週間に一回、隔週で水曜日に朝日新聞の大分版に書いています。これは掲載が始まって4年目になるんですけども、「災害は忘れる暇なくやってくる」というのは、私の名刺の上を書いてあるキャッチコピーです。

大分では、40年間気象台に勤務してきたんですけども、その間14回異動の経験しまして、大分は災害がなく、本当にいいところだと私は思っていたんですよ。平成2年のとき福岡から大分に転勤になって、そのときは地元だし、災害はないし、これは楽できると思っていたら、平成2年に大水害ですね。平成3年が19号台風ですね。平成5年がまた水害でしょう。平成6年が異常干ばつですね。豚なんか随分死にました。それから平成7年が九重山が噴くということもありました。平成に入ってから、本当に大

分は災害続きだったので、大分に帰ってきて2年目ぐらいから、この災害は忘れる暇なくやってくるという形で勤務してきたんですけども、気象台をやめて、さあ、何をしようかというときには、とにかく防災と温暖化問題は話して回らないといかんという形で、こういう形で8年間細々と啓発活動を続けております。

そして、新聞社から紙面をいただいたので、なるべくかみ砕いてやっていこうという形で、600字なんですけども、かなり苦労しながらやっています。私のこれからの第2の人生というのは、こういった形で啓発運動をやるということだと感じております。だから、県内の各地を走り回って、温暖化とか、地震、津波だとか、お話ししているところです。何か朝日新聞を読む機会がありましたら、ぜひこの欄も見てください。よろしくをお願いします。

委員 今回、今年、茨城と栃木で、鬼怒川の上流部だったと思うんですけど、線状降水帯がずっと停滞したという部分であの洪水が起きましたよね。大分県とかいう部分では、川がそんなに長い川じゃないですよ。それだけに、それと同じような状況がものすごく起こると僕は思うんですよ。なぜかという、低気圧も西から東に抜けている、川も西から東に、太平洋に注ぐというような部分では、重なりますよね。栃木の方のあの線状降水帯と同じような現象が起こるということを考えていいんですか。

委員 同じような現象はこれまでも起こっています。例えば平成5年の台風13号のとき、あの分はずっと南東風が入って、こちらの山に当たって、大分市で一日で415ミリですが、4分の1が一日で降りましたし。

委員 そのときは水門を閉めました。

委員 時間でも80何ミリか、90ミリ降りました。また、昭和18年なんていうのは、佐賀関で一日で800ミリか。3日間で1,000ミリ超えているんです。だから、年間の降水量の半分が降って、高田の方では堤防が決壊している。鶴崎のまちが大体2メートル、3メートルの水害がありました。だから、同じような状況はどこでもあると思います。昔は戸次だって、高田だって、水害地帯は土台を高くしてから備えておったんですけど、今は鬼怒川と一緒に、田んぼのところに、何も土台も築かずにやっているから、結局、一つ堤防が決壊すれば、同じことが大分でも起こります。

部会長 土木工学でも1時間当たり40数ミリという雨量が降るということでビルを設計するんですけど、今はゲリラ豪雨で、雨の降り方が想定を超えていますからね。

委員 だから、大分市の下水が大体時間50ミリで設定するんでしょう。だけど、まだ全部その設定で下水が設置されておるわけじゃないし、堤防もあるし、だから20から30ミリの雨でもアップアップになっていますし。

部会長 この記事で、上の方で、「8月に災害対策能力を身につけた中学生17名のジュニア防

災リーダーが誕生した」とありますけど、これは具体的にどういった研修マニュアルを行うんですか。

委員

3日間で、まず災害が起こる仕組みなんかを勉強したり、それから、避難所でどんな行動ができるのか、非常食を焚いてみたり、救急救命といった構成で、3日間ぐらいで研修をやっていたみたいです。

部会長

一応これは有料なんですか、無料なんですか。

委員

市が全部やっていますので、大分大学の小林先生なんかも加わっています。

だから、臼杵は、私が通い出して5年ぐらいになるんですけど、最初のうちはまだまだだったんですが、行政がしっかり働きかけするようになって、すごく馬力をつけてきていますね。だから毎年、自衛隊も、県警へりも全部参加して、市独自で訓練をやりませし、九電も行っていますね。市が独自で計画しています。

部会長

だから、そういうものは攻めの防災に徹さないといかんですね。

ありがとうございました。ほかの委員の皆様で何かご発言があれば、よろしいですか。

では、私の方から一言、皆様にお礼を申し上げたいと思います。

大変お忙しい中、貴重なお時間をいただき、そして活発なご議論をいただき、皆様の意見を踏まえて、提言書を大変良いものにまとめることができたということで、すばらしいと思っております。

進行がうまくいなくて、いろいろ皆様方にはご迷惑をおかけしましたけれども、当部会が無事終了することができまして、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

では、事務局、お願いいたします。

事務局

皆様、本日はお忙しい中、ありがとうございました。また、これまで長期間にわたり出席をいただきまして、誠にありがとうございました。これまでいただいた貴重なご意見、ご提言を計画の策定、また計画の実行・運用に生かしていければと思っております。ただ、まだ策定が終わったわけではございませんし、また最終提言もでき上がったわけではございません。引き続き個別または集まっていたらご意見をいただくようなこともあろうかと思っておりますので、その際はよろしくお願いいたします。

それでは、これもちまして第6回防災安全部会を終了いたします。本日はありがとうございました。

(了)